



2022年3月期 第2四半期

(2021年4月1日 ~ 2021年9月30日)

決算説明資料

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証一部 証券コード:6928

2022年3月期 第2四半期決算 業績報告 ① (前年同期比較)

- 前年度上期はコロナ禍の影響を大きく受けたが、前年度下期からの需要回復が継続し、大幅な増収増益

	2021/3期 2Q累計		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年同期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	100.0	13,714	100.0	+31.1	-
売上総利益	1,545	14.8	2,283	16.7	+47.8	+1.9
販管費	1,097	10.5	1,132	8.3	+3.2	△2.2
営業利益	448	4.3	1,151	8.4	+156.9	+4.1
為替差損	15	-	4	-	△73.3	-
経常利益	459	4.4	1,166	8.5	+153.7	+4.1
当期純利益	332	3.2	848	6.2	+155.4	+3.0

(ご参考) 2022年3月期 第2四半期決算 業績報告 ②
(前期下期比較)

- ・ 前年度下期からの世界的な自動車及び産業用機器の需要回復や、携帯端末などの消費マインドの改善基調が継続
- ・ リードフレームを中心に、銅などの素材高を売価に転嫁、営業利益率は低下したが増収増益
- ・ 純利益は前年度下期に特別利益(繰延税金資産)を計上したことにより減益

※ 前年同期比が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく比較対象に適さないため、前年度下期と比較しております

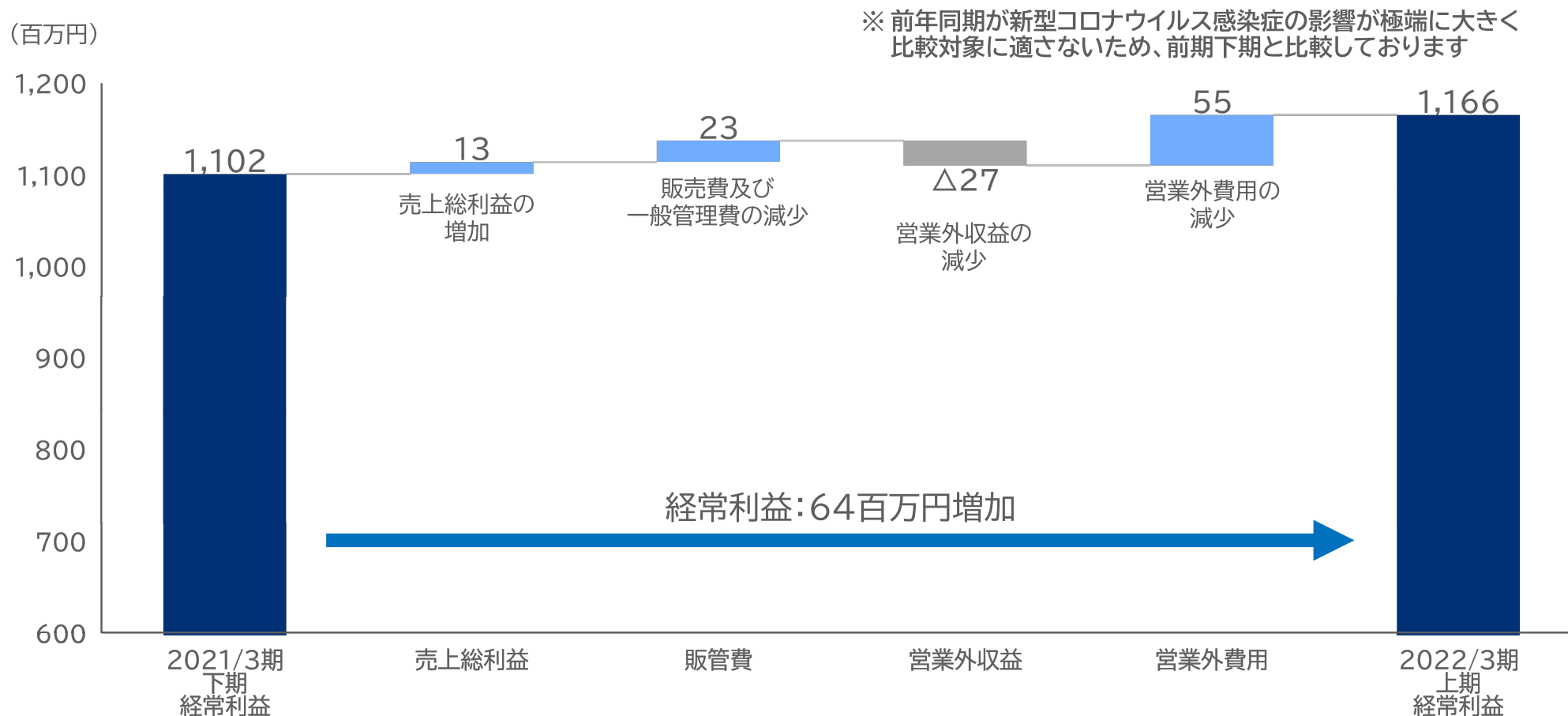
	2021/3期 下期		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前期下期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	12,535	100.0	13,714	100.0	+9.4	-
売上総利益	2,270	18.1	2,283	16.7	+0.6	△1.5
販管費	1,155	9.2	1,132	8.3	△2.0	△1.0
営業利益	1,115	8.9	1,151	8.4	+3.2	△0.5
為替差損	27	-	4	-	△85.2	-
経常利益	1,102	8.8	1,166	8.5	+5.8	△0.3
四半期純利益	1,157	9.2	848	6.2	△26.7	△3.0

- ・ IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けや産業用機械向けを中心に好調継続
- ・ オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイ向けや自動車向けのLEDを中心に需要は回復基調
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォンの新モデル向け部品の出荷が1Qから始まり、堅調に推移

※ 前年同四半期が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく
比較対象に適さないため、前期下期と比較しております

単位:百万円	2021/3期						2022/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	下期 累計	通期	1Q	2Q	上期 累計	前年 下期比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,735	1,516	1,911	2,123	4,034	7,287	2,380	2,288	4,668	+15.7%
オプト用 リードフレーム	678	615	530	814	1,344	2,639	969	921	1,891	+40.7%
コネクタ用部品	2,530	3,054	3,686	3,112	6,798	12,384	3,320	3,440	6,761	△0.5%
その他	168	164	168	187	355	688	195	198	393	+10.7%
合計	5,113	5,351	6,296	6,238	12,535	22,999	6,866	6,848	13,714	+9.4%

- ・ 売上総利益の増加…リードフレーム、コネクタ用部品とも前下期からの回復が続いた
- ・ 販売費及び一般管理費の減少…前期はコロナ禍により物流が混乱し運賃搬送費等が増加したが、今期は軽減
- ・ 営業外損益の改善…前四半期に津軽工場増築に関わるシンジケートローン手数料が発生した影響



- ・ 車載、民生・産機・その他の顕著な復調により、本来の各分野1/3ずつという配分に回帰
- ・ ウェアラブル向け市場は成長が続いているが、上期は新商品発売前で一時的に調整

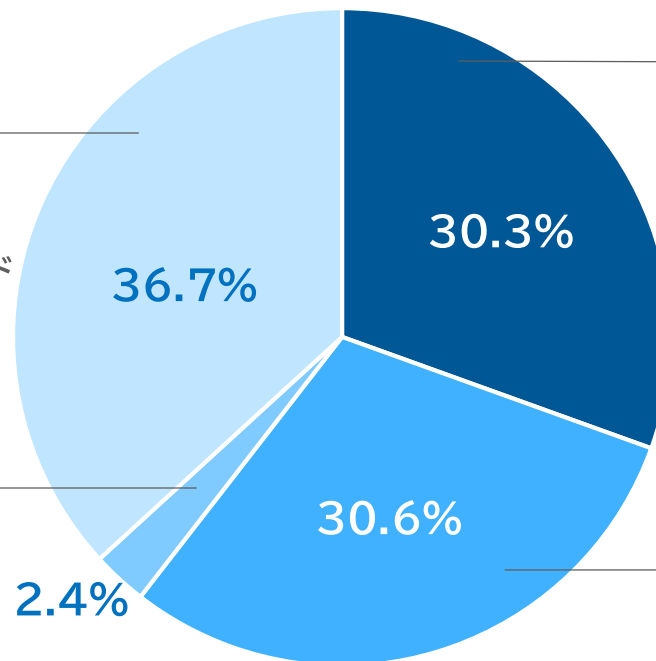
※ 前年同四半期が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく比較対象に適さないため、前年下期と比較しております

民生・産機・その他

- ・ 構成比は前年下期の30.4%から 6.3pt増加
- ・ 汎用的用途のパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等のディスプレイ向けLED用リードフレームなどが増加

ウェアラブル

- ・ 構成比は前年下期の4.6%から 2.2pt減少
- ・ 季節的要因および、昨年後半以降の急伸から一時的な調整局面



車載

- ・ 構成比は前年下期の30.8%から 0.5pt減少
- ・ 自動車の需要回復により、パワー半導体用リードフレーム、エアバッグ用コネクタ等が復調しているが、半導体不足や受入国の感染拡大による影響から、一部で調整

スマートフォン

- ・ 構成比は前年下期の34.3%から 3.6pt減少
- ・ 当期モデルは立ち上がり早く1Qから出荷開始
- ・ 下期比では季節要因により構成比低下

- 増益により、営業キャッシュフローは1,815百万円
- 津軽工場の増築等増産対応投資により、投資キャッシュフローは△1,212百万円となったがフリーキャッシュフローはプラスで推移

単位:百万円	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	前年同期末差
営業活動によるキャッシュ・フロー	370	1,815	+1,446
税引前当期純利益	446	1,159	+712
減価償却費	717	830	+114
棚卸資産の増加	△345	△281	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△775	△1,212	△437
有形固定資産の取得による支出	△887	△1,230	△343
財務活動によるキャッシュ・フロー	△128	206	+335
長期借入れによる収入	-	500	+500
長期借入金の返済による支出	△74	△49	+25
配当金の支払い額	△238	△272	△34
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,772	4,292	+1,520
フリーキャッシュ・フロー	△406	603	+1,009

※上方修正

- ・ リードフレーム・コネクタ用部品の需要は、パワー半導体やポータブル機器等の中長期的な成長から高水準を維持
- ・ 上期に在庫確保を目的とした前倒し受注も一部で発生し、業績は想定を上回って推移
- ・ 下期は、上期の前倒し受注による調整や季節調整を一部で見込むが、限定的なものと予想

	2021/3期			2022/3期				期比較	
	上期実績 (百万円)	通期実績 (百万円)	売上比 (%)	上期実績 (百万円)	期初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	売上比 (%)	前期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	22,999	100.0	13,714	23,000	26,500	100.0	+15.2	-
売上総利益	1,545	3,815	16.6	2,283	3,850	4,150	15.7	+8.8	△0.9
販管費	1,097	2,252	9.8	1,132	2,200	2,250	8.5	+0.0	△1.3
営業利益	448	1,563	6.8	1,151	1,650	1,900	7.2	+21.5	+0.4
経常利益	459	1,561	6.8	1,166	1,600	1,900	7.2	+21.7	+0.4
当期純利益	332	1,489	6.5	848	1,350	1,500	5.7	+0.7	△0.8
1株当たり 純利益	221.66円		-	200.79円		222.87円	-	-	-

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。